

# 令和3年度 第3回教育委員会定例会

## 日時、場所及び出席者

日時及び場所	出席者	
令和3年6月8日(火)	教育長 坂元 裕人	教育総務課長 野村 宏治
午後2時00分	教育委員 田原 正人	学校教育課長 今井 誠
↓		
午後3時50分	教育委員 葛迫 幸平	社会教育課長 兼 米田 昭嗣
第2研修室	教育委員 田之上 厚美	国体推進課長
	教育委員 福里 由加	

## 会議要旨

### 1 開会

定刻、定足数に達しており、令和3年度第3回教育委員会定例会を開会した。  
議案第10号は、非公開審議とする旨、教育長から発議があり全会一致で議決された。

### 2 令和3年度第2回定例会会議録の承認

承認

### 3 議事

報告第13号 令和3年度垂水市一般会計補正予算(第3号)案についての市長への  
意見申出について

報告第14号 垂水市実用英語技能検定料補助金交付要綱の一部改正について

報告第15号 垂水市立学校給食センター運営審議会委員の委嘱について

報告第16号 垂水市立学校給食センター調理・配送業務委託プロポーザル審査委員会  
設置要綱の制定について

報告第17号 垂水市教育支援委員会委員の委嘱について

報告第18号 垂水市特別支援連携協議会委員の委嘱について

議案第10号 令和3年度垂水市立学校評議員の委嘱について

### 4 その他

### 5 委員並びに教育長及び課長報告

### 6 閉会

議 決 事 項

件 名	提案理由	審議の状況	採決の次第
<p>報告第13号 令和3年度垂水市一般会計補正予算（第3号）案についての市長への意見申出について</p>	<p>令和3年度垂水市一般会計補正予算（第3号）案の作成について、教育長の臨時代理により差し支えない旨回答したこと、及びその内容について報告するものである。</p>	<p>特記事項 報告に入る前に、定例会会順における表示（令和2年を令和3年に）を訂正。</p>	
<p>報告第14号 垂水市実用英語技能検定料補助金交付要綱の一部改正について</p>	<p>垂水市実用英語技能検定料補助金交付要綱の一部改正について、教育長の臨時代理により決定したこと、及びその内容について報告するものである。</p>	<p>特記事項なし</p>	
<p>報告第15号 垂水市立学校給食センター運営審議会委員の委嘱について</p>	<p>垂水市立学校給食センター運営審議会委員の委嘱について、教育長の臨時代理により決定したこと、及びその内容について報告するものである。 (任期) 1年</p>	<p>特記事項なし</p>	
<p>報告第16号 垂水市立学校給食センター調理・配送業務委託プロポーザル審査委員会設置要綱の制定について</p>	<p>垂水市立学校給食センター調理・配送業務委託プロポーザル審査委員会設置要綱の制定について、教育長の臨時代理により決定したこと、及びその内容について報告するものである。</p>	<p>特記事項なし</p>	
<p>報告第17号 垂水市教育支援委員会委員の委嘱について</p>	<p>垂水市教育支援委員会委員の委嘱について、教育長の臨時代理</p>	<p>特記事項なし</p>	

<p>報告第18号 垂水市特別支援連携協議会委員の委嘱について</p>	<p>により決定したこと、及びその内容について報告するものである。</p> <p>垂水市特別支援連携協議会委員の委嘱について、教育長の臨時代理により決定したこと、及びその内容について報告するものである。</p>	<p>特記事項なし</p>	
<p>議案第10号 令和3年度垂水市立学校評議員の委嘱について</p>	<p>令和3年度垂水市立学校評議員を委嘱しようとするものである。 (任期) 1年</p>	<p>特記事項なし</p>	<p>承認</p>

### 議事内容等

	<p>議事に入る前に、GIGAスクール構想について、KYTの番組で取り上げられた協和小学校のビデオを教育委員へ紹介。</p> <p><b>3 議事</b></p> <p><b>報告第13号</b> <b>令和3年度垂水市一般会計補正予算（第3号）案についての市長への意見申出について</b></p> <p>教育総務課長 補正予算案の作成について、教育長の臨時代理により差し支えない旨回答したことを報告するとともに、その内容について所管ごとに説明。</p> <p>教育長 国民体育大会準備費は「ふるさと納税」からということで、財源内訳は「その他」となっているのか。</p> <p>国体推進課長 はい。企業版ふるさと納税です。</p> <p>田原委員 電子黒板・ディスプレイは、以前学校に入れたが今回追加ということか。</p> <p>学校教育課長 そうである。今回大型モニターの65インチを入れた。普通に電子黒板を買うと1台50万円～100万円かかる。昨年度に65インチのモニターだけを入れた。教育長が今触っているのがユニットである。モニターに何か貼ってあると思うが、これを貼ることによって、ただのモニターが電子黒板に変わることになる。今回、このようなやり方をすることによって、本物の電子黒板と遜色のない物が20万円ぐらい安く購入できる。しかも、財源は国庫なので、今回学校に入れる小学校51台、中学校11台は前年度各学校に入れたものにパネルを貼ることによって電子黒板になるのである。こ</p>
--	--

	れを今度の補正予算で計上したところである。
教育長	すべての学級に入るといふことでよいか。
学校教育課長	はい。クラスに1台ずつ入ります。
教育長	空調機器の工事期間は、図書館の貸出業務はどのように対応するのか。
社会教育課長	工事期間は、9月～2月までの6か月間。その間の貸出業務は市民館の1階フロアと館長室を使ってできないか検討中である。
教育長	空調工事を行っている間も、業務は止めないということか。
社会教育課長	何とか、止めないようにしたいと考えている。
教育長	学校巡回図書も継続して行うのか。
社会教育課長	はい。移動図書館もこの期間は少し回数を増やすことを検討している。
田之上委員	場所が限られていて、持ち込める本にも限りがあると思うが。
社会教育課長	どうしても、本を置くスペースに限りがあるので、とりあえずリクエストをしていただいて、次の日、図書館に取りに行ってお渡しする。
田之上委員	小さな子ども達への「お話し会」はどうするのか。
社会教育課長	場所を変えて実施したいと考えている。
	<b>報告第14号</b>
	<b>垂水市実用英語技能検定料補助金交付要綱の一部改正について</b>
学校教育課長	垂水市実用英語技能検定料補助金交付要綱の一部改正について、教育長の臨時代理により決定したことを報告するとともに、その内容を説明。
田原委員	受験の実情は。中学生では何級までいけるか。
学校教育課長	中学生では準2級を受ける子は毎年いる。たまに2級を受ける子もいる。準2級は高校1年生レベルである。毎年、受験率50%超えを定着させたい。
教育長	受験は年に2回あるのか。
学校教育課長	3回ある。
教育長	3回あれば50%いきそうであるが、70～80%になっても問題はないか。

学校教育課長	問題ない。予算は獲得してある。
福里委員	受験は何処で受けるのか。
学校教育課長	中学校で受験できる。但し、3級以上の面接については鹿屋まで行くことになる。あくまで準会場なので1次試験はここで受験できる。金曜日の放課後に受験がある。
福里委員	資格を持っているとやはり違うか。
学校教育課長	中学生で3級を持っていれば、色々な書類の有資格欄に記入できる。
教育長	レベルで言えばどの程度か。
学校教育課長	5級が中1レベル、4級が中2、3級が中3レベル、準2級が高1レベル、2級が高卒レベルである。喋れるのとは別物だが、3級から英会話の試験がある。
	<b>報告第15号</b>
	<b>垂水市立学校給食センター運営審議会委員の委嘱について</b>
学校教育課長	垂水市立学校給食センター運営審議会委員の委嘱について、教育長の臨時代理により決定したことを報告するとともに、その内容を説明。
教育長	収支決算ということであるが、どうなるのか。
学校教育課長	給食費が適正に運営されているかどうかを監視する役割を担っていただいております。改善点等を検討していただいております。
教育長	給食費の回収率はどれぐらいか。
学校教育課長	98%ぐらいである。
教育長	この回収業務は、学校では誰が行うのか。
学校教育課長	事務の先生が中心となってやっただけであるが、これを何とか変えたいと思っている。学校で集めたお金を給食センターに移動させるやり方をしているが、給食センターの通帳に直接引き落としという形でお金が入ってくれば、学校を通さなくて済む。督促状とかの文章は学校に出して頂くが、それを垂水市の方で行うやり方に変えられないか検討中である。そうすると、その仕事は現時点では給食センター職員の業務になる。公会計になると、しっかりした方が徴収に行かれると思う。
	<b>報告第16号</b>
	<b>垂水市立学校給食センター調理・配送業務の委託プロポーザル審査委員</b>

	<b>会設置要綱の制定について</b>
学校教育課長	垂水市立学校給食センター調理・配送業務の委託プロポーザル審査委員会設置要綱の制定について、教育長の臨時代理により決定したことを報告するとともに、その内容について説明。
教育長	学校教育課で補足説明はないか。
学校教育課長	5社の予定が1社辞退して4社となったが、その4社は全国的に実績のある会社である。どうなるかわからないが、審査は11人で行う。4社とも垂水市の給食が美味しいので垂水を取りたいと思っている。
教育長	持ち点は1人何点か。
学校教育課長	1人100点です。
教育長	どの会社になっても、これまで同様給食費は上がらない。安全・安心で味も変わらない。これまで勤めていただいた方々は希望すれば優先的に雇用される。給料も下がらない、むしろ少し上がる感じ。食材についてもこれまで通り、地元食材を使っていたかということでもいいか。
学校教育課長	その点については、4社とも約束してくれた。その最低レベルは4社ともクリアしているので、選ぶとなると難しく、4社とも拮抗している。 そこで、プロポーザルでどのようなアピールができるかがポイントになる。企業によっては、様々なことをやっている。災害訓練で給食センターを使って炊き出しをして提供している企業があるなど、各社様々である。 当然、どこになろうが今の体制よりよくなるので委託する訳である。今は、会計年度任用職員は週4日しか働けず、7～8人の少ない人数で業務を回したりしている状況であるが、勤務時間が融通でき、週5日働くことができたり、勤務条件を変えられるところが1番のポイントである。 採用人員枠を少し広げて採用し、毎日最低でも12人体制をつくれたらと考えている。母体は今働いている方々であり、高い技術を持っているので、その方々に残って頂いて、できればその人達の中から、そこのリーダーが誕生してくれたらと思っている。どこの企業も最初は自社からのリーダーが入るが、後々は垂水市出身者をリーダーにしたいと考えている企業と、リーダーはあくまで自社から出すと考えている企業がある。そのあたりをどう判断するかということになる。
田原委員	垂水市の給食が美味しいというのを貫いて行かなければいけない。その為には、リーダーをこれまで勤務していた人から出すという配慮が必要ではないか。人ががらっと変わってしまったら、味が変わってしまうことがあると思うが。
学校教育課長	今、一番気がかりなのは栄養教諭の問題である。今、1人体制であり、その人が今年度の異動対象者となっている。この人は、県下でも一流の栄養教諭で、県の指導主事になってもよい程の素晴らしい人材である。また、

	若手の指導で、研修センターの講師をされる人である。その人の献立で、垂水の給食センターは保っているようなものである。最終的には栄養教諭で味が変わってしまう。
田之上委員	随分昔の話だが、垂水市の給食でも残食が多かった。その時期に来られた栄養教諭が信念を持って味を変えてくださった。化学調味料ではなく、本来の出汁の効いた食事を子ども達に提供するという強い信念から今の垂水市の給食が始まっている。長い時間をかけて美味しくなった。垂水市に来られた先生が、「垂水市の給食は美味しいですね。」と言われるような給食ができ上がっているわけであり、これをどうやって維持するか、伸ばしていくかが課題である。
学校教育課長	そこは凄いプレッシャーを感じながら、新しい栄養教諭は来られると思う。それができる人を呼ばないといけない。味を守るのは大変なことだが、頑張ってもらいたい。
教育長	プロポーザルは、会社説明が 15 分、質疑応答が 15 分でよかったか。
学校教育課長	そうである。その後に審査がある。
教育長	その日のうちに、結果は出るのか。
学校教育課長	結果はその日にします。
教育長	そうであれば、次の教育委員会で、会社名の報告ができるのか。
学校教育課長	できます。また、7月には従業員募集のチラシが入ります。
教育長	教育委員の皆さんに、検食をしていただく機会をつくれませんか。
学校教育課長	この定例教育委員会を午前中にして、昼に給食を食べて頂くように設定すれば、ここに持って来れる。また、9月の学校訪問等で給食を食べて頂ければ味の違いが分かるのではないかと思います。
	<b>報告第 17 号</b> <b>垂水市教育支援委員会委員の任命について</b>
学校教育課長	垂水市特別支援連携協議会委員の委嘱について、教育長の臨時代理により決定したことを報告するとともに、その内容を説明。
福里委員	この支援委員会に掛けられ、「こちらが適切ですよ。」と言われると思うが、自分の知っている人は、親の意向が強くて、それとは逆の方向に行かせる人が多い。親が希望しなければ、もうこの会には掛からないのか。
学校教育課長	いや、毎年掛かる。こちらとしては、「こうされたらどうですか。」と提

	言はするが、最終的には保護者の意見を尊重するので、保護者の意見を無視して、こっちに入れるということはできない。
福里委員	実際にこの会に掛けられて、「こっちがよいですよ。」と言われるのに、違う方に行かせている保護者が殆どだと思う。保護者が聞く耳を持たないのか、子どものことを第一に考えて言ってくださっているのに、「今年はいいです。」とか言って断る。親がその子のことを一番分かっていると思うが。
学校教育課長	幼稚園ではあまり感じていなくても、小学校に入り、授業を見たりしたら、どう考えても自分の子はしっかりしているとは思えない。そういうのを感じ取って欲しいと思う。「いやいや、絶対そんなことは許さん。」と言われるのは、大抵、祖父母が多い。だが、その意識も随分変わってきて、どんどん特別支援学級が増えてきている。教員の採用人数も増えていますが、特別支援学級の数が増えてきて、県内で92クラス増えた。垂水小学校も今年度5クラスになった。
福里委員	「この会の結果はこうです。」と保護者に示しても、「お家ではできるんですよ。」と言われれば、そこで終わってしまうのが難しいところだ。
教育長	専門家の見立て通りに就学させた人の割合はどの程度だろう。結果、どうだったのか。その声を聞いてみたい。「専門家の言うとおりに就学させてよかった。これがこの子にとって相応しい教育なんだ。」と思っている保護者がいると思う。そう言う声を大きく発信していきたい。
福里委員	息子の同級生で、最初の就学前検診で養護学校ですよと言われた子どものお母さんは、「最初はやっぱりショックだった。でもこの子の事を考えたら養護学校に行かせてよかった。」と言っていた。
教育長	その子の将来を考えて、その子が自立していく為の、生きる力をきちんと看取ってその子に相応しい教育をしてくれるのが養護学校でもある。言うならば、その子のお母さんは正しい選択をされたと思う。
福里委員	課長の言われるとおりに、幼稚園でも反対される祖父母は多い。「子どもはこんなものだ。うちの子も子どもの時はこんなものだった。」と言われる。
学校教育課長	すべては結果だと思う。「養護学校に入れてよかった。」と思える結果が出るか出ないかが大きい。入れるかどうかでやっぱり悩みます。そこに入れてしまえば、他の刺激がないとか。でも手厚い手当てをしてくれる。1クラス生徒は多くて4人で、それを担任2人で指導するわけなので。ただ、養護学校に行くとなると、やっぱりその障害度によるところがある。聴覚障害、視覚障害は、極端に言えば、割り切る事ができる。それで専門教育を受けるので、その専門教育に行った方が間違いなくよい。その学校に行くと、卒業生が盲学校の先生になったりしている。言葉は悪いが、その他のどっちつかずの子ども判断が一番ぶれやすいところである。

田之上委員	<p>児童クラブで見ている子ども達の中に、この子は支援学級で見て貰った方がいいのになあと思うお子さんもいたりするが、やっぱり親御さんが「学年が上がっていけばできるようになりますから。」とおっしゃる人がおられる。実際に支援学級に行き始めた子もいるが、その子は行ってよかったと言っている。すごく明るく元気になって楽しそうにしている。</p>
学校教育課長	<p>小学校の支援学級の先生は一生懸命頑張ってくれているが、中学校になると、特別支援の免許をもっている教員は4割しかいない。免許を持っているからよい、持っていないから悪いということではないが、「うちの学校の特別支援学級は、こんな先生がこんな教育をします。」と胸を張って特別支援学級の体制を校長がアピールできるようになれば、また変わっていくと思う。「こんなスペシャリストがうちの学校にはいます。」と言えるようになれば、本当にそんな教諭が少ない。そこをまず変えていかないと変わらないと思う。特に中学校を変えないといけないと思う。</p> <p>こんなに急激に特別支援学級が増えるとは誰も予想していなかったもので、体制が追いついていない。指導する先生達を変えないと支援学級に魅力はない。「お母さん、うちのクラスにやってください。私がこんなふうにしてみせますから。」と信念を持って言える担任がいれば、保護者はやりますよ。「今はこんな風だけど、自分がこんな風にして伸ばして行って、受験もちゃんとできるようにするから。」と胸を張って言ってくだされば、保護者は喜んで行かせますよ。逆に、ある意味、個別指導ができますから、保護者からそっちに入れてくださいと言いますよね。</p>
教育長	<p>小学校から中学校への接続が難しい。小学校では本当に丁寧なよい教育をしても、中学校で不幸にもそういう状況になる。すべてがそうだとは言わないが、極めて中学校の支援学級の体制が厳しい現状にある。</p>
学校教育課長	<p>なかなか配置できる教員がないのが現状である。</p>
教育長	<p>異動表の中に特別支援学級経験があるかないかは、大きな条件だと思う。</p>
葛迫委員	<p>小学校で特別支援学級に入っていて、中学校になったら入れませんという家庭もあると聞かす。</p>
学校教育課長	<p>何故かという入試、受験があるからです。でも特別支援学級でも、入試を受けて合格する子はいます。クラス担任と特別支援担任の2人がタッグを組めるかどうかです。合格できます。学び方が違ってくるので、中学校になったら、どれが正解かを色々考えます。今、何処の高校も割と合格点が下がってきて以前より入れるようになってきている。今はそれがないので、極端なことを言えば、最低ラインの点数を取れば合格なので、昔に比べれば入り易くなっている。ただ、最低ラインの点数はどうしても取れないといけない。</p>
<p>報告第 18 号</p>	

学校教育課長	<b>垂水市特別支援連携協議会委員の委嘱について</b> 垂水市特別支援連携協議会委員の委嘱について、教育長の臨時代理により決定したことを報告するとともに、その内容を説明。
教育長	支援委員会と特別支援連携協議会の違いを簡潔に説明してください。
学校教育課長	連携協議会で、より実態に基づいて実際にそこで審査したりする人達の話をもとめて支援委員会へ送る。支援委員会では、人数が増えるので、連携協議会の結果をもとに全員で協議して、最終的に「これでよい。」というのを纏めて教育委員会に答申するするのが役割である。より詳細に教育委員会へあげる資料等をつくるのが支援委員会である。
教育長	全体の支援委員会は就学指導の結果を踏まえて答申をしっかりとつくる役割があり、協議会は実態に基づいての支援体制の整備という捉え方でよいか。
学校教育課長	はい。それをしっかりと協議して今後どうあるべきかを考えていく。
教育長	メンバーはあまり変わらないが。
学校教育課長	4人違うが、ほぼ一緒です。
田原委員	就学指導委員会というのがあったが、名前が変わったという捉え方でよいか。
学校教育課長	はい。内容は一緒です。
	<b>議案第10号</b> <b>令和3年度垂水市立学校評議員の委嘱について</b> (非公開)
4 その他	なし
5 委員並びに教育長及び課長報告	委員並びに教育長及び課長報告に入る。
田原委員	「5月16日(日)生涯学習オープニングフェアに出席して」 雨がばらつく生憎の天気であったが、多くの方々が参加されていた。集まった人達は、9割方が女性であったが、男性はどうしているのだろうか」と疑問を持った。実際の講座の受講時は、少しは男性も参加されているであろうが、生涯学習の主役は女性なのだと実感しつつも、これでいいのかなと思った。

### 「5月18日（火）市教委学校訪問について」

午前中に訪問した牛根小学校は、4月に校長先生が代われ、また新しい風が吹いていた。手品をされるなど明るい人柄なので、職員・児童、そして保護者や地域にすぐに馴染まれるだろうなと嬉しく思った。タブレットやICTの活用などにどのクラスも取り組んでおり、先生方が積極的に活用しようとされていたのは好感が持てた。まだまだ的確な活用という所まではいかなくとも、まずはやっていくうちに学んでいくのではないかと考えた。また、表現力を付ける研修にも取り組んでおられた。児童が発表するのをしっかり聞く態度や言い終わるまでじっくり待つ態度など大事にされているのがよく分かった。

午後からの境小学校は、先生と児童の1対1の授業を見て感動した。しっかりとした指導過程を踏んだ授業で、特に多様な考え方を引き出す部分で、指導主事の先生方が参加して児童の考え方を広げてあげたのはよかったなと思った。かねてもこのような授業が望ましいが、先生が他の児童役を2人ぐらい兼ねて実践されているのだろうなと感心しながら見ていた。

それにしてもこれが新採の先生とは驚いた。努力されていけば、この先生は1年経てば凄い指導力を持った教師になるだろうなと非常に頼もしく思った。ただ1人なので、これまで地域としっかり連携した教育が行われていたが、これがどうなるのだろうと思うが、その辺を地域がどう支えていくか、地域とどう連携を取っていくかが大事だと思うことであった。

今日の新聞のひろば欄に、「子どもと学ぶICT活用」という記事が掲載されていたが、錦江町の若い男性教師の学校現場の話であった。DVDを使った授業の予定が、映らなくなり、その時間は作文になってしまった。その先生は、ICT活用の推進を研究の中心に据え、その中で試行錯誤のデータが取れることを成功と捉えた。何もしないことを失敗と捉えて日々の授業で活用しよう。兎に角、色々なことが起こるが、使ってデータを残すことを積み上げていきたい。報道では、ICT活用の輝かしい成功例ばかりが強調されているように感じるが、多くの学校は本校のように泥臭い試行錯誤の最中だと思う。だから、温かい目で地域の学校を応援して欲しいという現場の先生の声が掲載されていた。

これからどんどん使って活用していくことが大事なことで、どんな授業も失敗はないんだということを発信していかないといけないとこの記事を見て思うことだった。

### 「5月18日（火）牛根小学校・境小学校の学校訪問について」

牛根小学校は、本年度3人の新1年生を迎え、15人の児童が教室で明るく元気に授業を受けていたと思う。また、新しい校長先生のもとで、担任の先生と児童達が寄り添いながら勉強していく様子が窺われた。牛根小学校も複式授業なのでそこに携わっている先生達は指導も大変だと思うが、牛根小学校の子ども達が、複式で勉強してよかったと思える授業をこれからも展開していただければと思うことだった。

また、牛根小学校は校長先生が代わってもアミューズメント的な校風は変わらないと思った。校長が去年までは手にギターを持って、今年からは

葛迫委員

手にするツールがギターからトランプになったということで、トランプによって子どもと教師の距離を縮めることが子どもの成長に繋がっていくと思う。プラスになることを期待している。

境小学校は6年生1人の児童を皆で寄り添いながら指導していくわけであるが、今年1年間、先生と児童が1対1で遊んだり授業をしたり、運動会、遠足など様々な学校行事をこなしていくことになる。

八木澤校長先生、学校主事の立和田さん、担任の榎屋先生、そして一人の児童である森山さん、境小学校はいつもこの4人である。森山さんの仲間は3人の先生方なので、是非、彼女の成長を見守りながら、勉強や運動会等の行事をこなして行って欲しい。そして、彼女の様々な悩みなどを聞き入れながら本年度を皆で乗り切っていただきたいと思う。大変な1年だと思うが、彼女がうまいこと育っていったらなと思うことだった。

田之上委員

### 「生涯学習オープニングフェアに出席して」

去年はコロナで出来なかったが、今年は感染対策を施し皆さんが一堂に会してオープニングフェアを実施できたことはよかったと思った。今年度も様々な講座が準備され、多くの受講生の方が出席されました。皆さんが生き生きしてとても楽しみにしている感じが感じられました。

受講生代表の福田さんのあいさつも非常にユーモアがあってよいお話をされたなと思うことでした。これから1年間、最後まで頑張りたいと思う。この時に、垂水市のPRビデオを見られたらよかったのにと考えた。

### 「学校訪問について」

今年度最初の訪問は、少し児童数が増えて賑やかになった牛根小学校だった。小規模校のよさを生かして、生活面や学習面に手厚い指導がされているようである。また、地域の繋がりが強く、コロナ禍でも工夫して活動が行われていた。授業も活気があり、機器の活用や見やすい板書など先生方の工夫が伺えた。境小学校では、1人の児童である森山さんと先生方が元気で頑張っていた。機器の活用や牛根小学校との合同授業などを取り入れて活動が行われているとのこと。児童も元気に活動しているようで安心するとともに、これからの活躍が楽しみである。

### 「タブレット端末の利用について」

ある日、児童クラブの2年生の子どもたちの間で、タブレットが話題になった。「先生、先生、私のパスワード知ってる？」と声を掛けられ、「知らないよ。」と答えると、「あのね、私のパスワードは〇〇〇なんだよ。」と言うように、2年生でも皆パスワードを覚えているのがすごいなあと思った。「今日は〇〇をしたよ。」とか「算数の授業で使ったよ。」とか皆が話をしてくれた。タブレットを開くのが非常に楽しみという感じで何人も話をしてくれたので、活用がどんどん進んでいるなど実感したところだった。

### 「通学バス添乗でのこと」

乗車する時に、「おはようございます。」「よろしくお願ひします。」と一人一人が挨拶をして乗車してきた。朝からパラパラと降り始めた梅雨空で

はあったが、とても爽やかや気持ちになった。こんな素敵な挨拶が当たり前ができる彼らはすばらしいなと感じた。

福里委員

#### 「学校訪問について」

牛根小学校に行って、去年はあまり感じなかったが、児童の声が学校中に響き渡っていて、少し児童が増えただけだと思うが、学校全体が明るく感じられた。校長先生も新しく来られて、子どもたちへの熱意が感じられた。境小学校は、児童はゆかさんが一人ということで、訪問するまでは色々心配していたが、ゆかさんが色々な大人の人達に支えられて頑張っている姿がすごく印象的だった

#### 「GIGAスクールについて」

垂水小学校でも、GIGAスクール構想が進んでいるみたいで、息子と娘も学校の話はあまりしないのだが、GIGAの事はよく話をしてくれる。タブレットの内容など喜んで話をしてくれる。やはり各クラスで差があるみたいで、「隣のクラスは沢山使っているのに、うちのクラスは・・・。」などの声も聞かれる。また、うちの幼稚園で働いている先生のお子さんが柘原小学校に通っていて、その子の担任がタブレットの責任者だそうです。そのお母さんは、「毎日のようにタブレットを授業で使っていると言うけど大丈夫なのかな？」と言われていた。内容をよく知らないので、「タブレット＝遊び」と思われている人も少なくないようである。息子は沢山の問題を解くことで与えられるポイントを集めることに張り切っている様だ。

#### 「全国学力テストについて」

息子も6年生と言うことで、5月に全国学力テストを受けた。全国規模のテストということで、受ける前は「難しい試験」という先入観があったようだったが、学校から帰ってきて初めて口にした言葉が、「5年生の時の、定着度テストより簡単だったよ。」でした。これも、全国のテストに向けて先生方が対策を取って子ども達に練習問題を沢山やらせてくださったおかげだと思う。2年前よりも10点くらい平均点が上がったとの事でした。

教育長

#### 「全国学力テストについて」

全国学力テストで小学校がよかったという報告を受けている。全国学力テストは、先生方の頑張りもあるが、やはり子ども達の頑張りや称えたいと思う。粘り強く、諦めずに最後までよく頑張ったと思う。ある先生は、決して無回答にしないということに拘って指導したと聞いている。その拘りが結果的に子ども達によい点数を取らせた。それが何に繋がるかと言え、私は自信に繋がると思う。その自信が中学校によい形で引き継がれると思っている。そう言う意味では、やはり頑張ればきちんと結果が出るんだと言うことを児童も感じてくれればよいのかなと思う。

垂水小学校は頑張ったと、また、他の小さな小学校もよい結果を出しているという報告を受けている。本当に市全体として、各々の小学校で子ど

もが学び、それをしっかり導く先生方の姿があったことに私は非常に感謝している。

#### 「GIGAスクールについて」

保護者の方々に内容をよく理解してほしい。理解度が進んでいない方もおられるということがよく分かる。このテレビを見てくだされば、ゲームではなく、まさに勉強で使う道具なんだというのが一目瞭然である。直近で言えば、例えば新城小学校がこの前の日曜参観の時、親子で体験された。そして、実際にタブレットを持ち帰って、本当に繋がるかどうかも試されている。柘原小学校もそのようなことをされている。日曜参観で親子一緒に体験することは非常に大事なことである。「なるほど、これがタブレットか。そして学習でこんな活用をするんだ。」ということ子どもと親と一緒に体験すると、改めて文房具なんだということが実感できる。そういうことを垂水小学校でもまたされるのではないかと思う。パスワードの事は委員の話で出たとおり、子ども達はタブレットを使いたいから1年生でも覚える。まずは、どんどん積極的に使ってみる事が大事である。

#### 「学校訪問について」

学校訪問はありがとうございました。牛根小学校は校長が代わったことで、また、新たな学校の特色が出たなどと思っている。境小学校は、田之上委員もおっしゃったが、教育委員会も非常に支えております。

榎屋先生がいくら優秀な先生だと言っても、やはり1対1は辛い。誰かに愚痴をこぼしたくもなる。そこで、うちの指導主事及び学校教育課長は週に3回ぐらい通っている。加えて、大隅教育事務所も、女性ならではの、女性でないと酌み取れない気持ちもあるということを配慮され、女性の指導主事を派遣してくださった。そして、指導課長までが境小学校に行かれて校長先生と面談をし、指導もしてくださっている。

そのようなことで、色々な人がサポートをしてくださって何とか1人の児童と榎屋先生を、あるいは、学校を支えているということ、何よりも教育委員の皆様がご理解いただいている、校長あるいは榎屋先生が元気になるような言葉を掛けてくださったことが有難かったみたいで、校長から、学校訪問も非常に嬉しかったという感想を聞いている。

今後また、今のようなお気持ちでずっといてくださって、機会があれば境小学校にも顔を出していただければ有難いと思う。

#### 「コロナ・熱中症対策について」

コロナが収束しつつあるとはいえ、新規感染者の推移は要注意である。こういうことを重く受け止め、教育委員会では、公文を発出している。クラスター・熱中症・マスクの死亡事故等を絡めて、例えば、熱中症対策では給水タイムをきちんと設ける、体育館でも換気を充分に行い、マスクは体育の時は外す等、判断を教師が的確に行って明確な指示が出せるようにするといったことである。決して子ども任せにはいけない。中体連も始まるので、感染予防対策の更なる徹底が求められる。そういうことも中央中学校校長と市教委が詰めて十分に話し合いを行っている。引き続き、コロナ禍で子どもを守るということを命題としながら学校運営を進めて欲

しいと思っている。

### 「修学旅行について」

垂水小学校は明日から修学旅行である。修学旅行は子ども達にとって一番の思い出になるので、よい体験をして元気で帰ってきて欲しいと思っている。小規模校は、6月16日から修学旅行に出発する。境小学校の6年生も参加するが、うまく、コロナの収束を見計らったように出発していくことになった。これで今年は全校が行ったことになる。来年、3月には中央中の2年生が修学旅行に出発する。その頃には、ワクチン接種も行き渡って、安全・安心な中で行けるのかなと思う。その様なことで、色々な学校行事が順調に進めていけたらよいなと思っているところである。

### 「こどもの俳句集について」

それから、社会教育課のブックスタート事業であるが、例年になく準備が早かった。大人こそ本を読まないといけないと思う。また、以前から子どもの俳句集をつくりたいと言っていたが、10年間分のこどもの俳句があるので、「垂水の魅力を知る 楽しい俳句の作り方」というテキストをつくることにした。表紙には葛迫委員の絵を使う予定である。この1冊で俳句の鑑賞・作り方までのテキストになって、俳句に興味をお持ちの大人の方の入門書としても使える。本当に大人の方々の講座でも使えるよい物だと思っている。10年前の俳句もあり、垂水南中学校、垂水高等学校の生徒の作品も載っているので、とても興味深い。葛迫委員・瀬角龍平さんの力も借りながら、1冊のテキストとして夏休み前に子ども達に配布できたらと思っている。きっと、子ども達も楽しく学び、また俳句を作ることが出来ると思っている。

教育総務課長 4課長から5月9日から6月8日までの主な行事等の実施状況について  
学校教育課長 報告するとともに、7月16日までの行事予定についてお知らせした。  
社会教育課長  
国体推進課長

6 閉 会